



## 暑中お見舞い申し上げます



晩夏の候、全国的にとんでもない酷暑に見舞われております日本列島ですが、轟・大野原地区の皆様はお元気にお過ごしでしょうか。6月から大雨続きのため7月9日の朝市は臨時休業させて頂くほどでした。幸い大規模土砂災害はありませんでしたが、梅雨明け後は連日の日照り・・・今度は雨不足です。自然の力には逆らえない中、日光を得たナスやオクラは起死回生の成長を見せ、のら猫は日陰の場所を渡り歩いて生きています。たくましい！そんな姿に元気をもらい、ぼちぼち夏を乗り切りたいと思います。皆様、水分と睡眠を補給して下さいね。では、話題がさかのぼってしまい甚だ恐縮ですが、今回は大野原区の皆様の活躍をご覧ください。

◇また2枚目には太良町社会福祉協議会様が制作し見事全国2位に選ばれたポスターを掲載させて頂きました。病院でたまたまポスターを見た方の情報から、生活支援コーディネーター様方を通じ解説も頂きました。併せてご覧頂ければ有り難いです。

### 大野原っ子シリーズ① 田植えを頑張りました R5.5.26



5月末、大野原区宇坪地区・前田様の田んぼにて、大野原小学校の児童達が田植えをしました。児童達は最初は戸惑いながらもコツをつかんだら速い速い！先生や地元の方もびっくりするくらい素早くきれいに苗が植えられたそうです。秋の収穫が楽しみです。お疲れ様でした。(写真提供:大野原小学校様)

### ② AMラジオ完成、「聞こえる〜！」 総務広報部会 R5.7.13



大野原小学校に於いて、「ラジオ工作&電波教室」が開催されました。佐賀県電波適正利用推進員協議会の4名の推進員の皆様・コミュニティ総務広報部長宮崎博信様・坂田会長のご指導のもと、5,6年生児童の皆さんがAMラジオを作りました。初めて作った子も3回目のベテランさんも無事に完成。「英語しゃべってる！」「歌が聞こえる！」と校庭に出て電波をキャッチして賑やかに盛り上がりました。

次回は「轟小・しいば川稚魚放流体験」や「手品教室」(大野原小学童クラブと福寿会の皆様)を掲載予定です。

## 『車を運転できなくなった日』ポスター解説

このポスターは、二人だけでひっそりと山村で暮らす、実在する夫婦の生活の一部を切り取ったものです。

先頃、期限切れの免許証で自動車を運転していることが見つかり、その結果、車を手放すことになってしまい、今までの生活が一変してしまいました。それまで、街まで約8kmの山道を軽トラックに乗り、なんどか人の手を借りずに暮らしていました。本人たちにとっては、「ある日突然、車の運転ができなくなりました。」と感じられたことでしよう。今のごころ、生活支援ボランティアや近所の助けを借りながら、住み慣れた家での生活ができています。腰の曲がりは、家業の農作業をずっと続けてきた証です。

このポスターの主題は自助力の向上、つまり「自分で備える大切さ」です。住民の声の中には、「なんとかかなるさ」（移動について）そういうことは行政が考えること、「いつかは運転免許証を返納するけれど、今は考えられない」など、どこか“他人事”と感ぜられるものがあります。しかし、急激な人口減少や若者の町外流失による町の活力の衰退、医療福祉人材の不足は深刻で、これまでのように互助・共助・公助に頼ることができなくなっているという現実を直視しなければなりません。「困ったときは助け合う」確かにそのとおりでしょう。しかし、それだけでは片づけられない現実問題もあります。

「自分らしく生きること」を目標とするのであれば、きちんと自分の人生観や現実の生活と向き合い、考えて取り組んだ先にこそ、“真の自分らしい人生”が見えてくるのではないのでしょうか。まずは、一人ひとりが自分の人生や生活に責任を持ち、将来に備えて前向きに取り組むことが「自分らしく生きること」への第一歩になると考えます。

とは言え、自分の方だけではどうにもできないことはあるでしょう。その時は、互助・共助・公助へと順に頼っていくことで、社会全体のバランスは取れていくものだと思います。

このような思いからこのポスターには、地域住民が同じ方向を向き、話し合いの場（協議体）で解決方法を一緒に考えて、みんなでこのピンチを乗り越えていきたいとの願いを込めました。

最後に、このポスターに関わっていただいた全ての方に感謝します。ありがとうございました。

互助：隣近所の助け合い  
共助：地域や地区での助け合いや社会保険制度  
公助：行政による公的な支援

大良町社会福祉協議会／生活支援コーディネーター

## 車を運転できなくなった日



「住み慣れたこの家で最期まで暮らす。それ以外の生き方なんて考えもしなかった。ある日、そんな当たり前の暮らしが崩れた。」

これは、あなたの身に将来起こるかもしれないことです。車を運転できなくなった時の暮らしについて、考えてみたことはありませんか。いつかやって来るかもしれないその時のために「自分で備える」取り組みを始めましょう。

〈生活支援体制整備事業〉

このポスターは「いきがい・助け合いサミットin東京」ポスター展投票において全国第2位に選ばれました。

2位

